



緑と活力のある ふれあいのまち小平

平成14年(2002年)

4/20

市報 こだいら

コミュニティバス 特集号

第981号 発行：小平市 編集：都市整備部総合計画課 〒187-8701 小平市小川町二丁目1333番地 ☎042(341)1211(代表)
こだいらホームページ <http://www.city.kodaira.tokyo.jp> 電子メール info@city.kodaira.tokyo.jp こだいらテレホンガイド ☎042(342)1222

コミュニティバスの 試行運行を検討しています

小平市には、東西方向の鉄道やバス路線が少なく、市内での移動は必ずしも便利とは言えません。また、駅やバス停留所から遠い、バス路線があっても運行本数が少ないなど、交通の不便な地域も点在しています。

一方、以前と比較し、高齢者が多くなり、車や自転車を利用すること、歩くことなどを困難に感じる人が増えています。若い人でも、雨の日に自転車を利用することや、子どもを乗せて自転車を走らせることはたいへん危険です。また自転車では買い物の量が限られてしまうという主婦や、夜間に駅から自宅まで歩いて帰るのが怖いという女性の声もあり、安全で安心な移動への願いは強くなっています。

こうした交通の課題を改善するため、平成13年度「小平市コミュニティバス研究会」を設置し、検討を重ねてきました。このたび報告書がまとまりましたので、その概要をお知らせします。

コミュニティバスの運行は、バス停留所が近い 運賃が安い 時間どおりに来るの3つの特徴から、市内全域を1つのルートで循環することや、複数の地域で同時に導入することは財政的に非常に困難です。市では研究会の報告を受け、人口・高齢者数・人口密度・高齢化率などを踏まえ、もっとも多くの方の利用が見込まれる地域（小平駅～一橋学園駅～鷹の台駅）での試行運行を検討しています。コミュニティバスが地域の皆さんの快適な足となるよう、研究会の報告に対するご意見をお聞かせください。



なぜコミュニティバスが 必要なの...?

おじいさん、おばあさんになっても いきいきと暮らせるまち

市の高齢化率（65歳以上）は平成14年1月1日現在で15.4%（27,383人）とすでに高齢社会を迎えています。平成27年には21.2%（38,451人）になると予想されています。

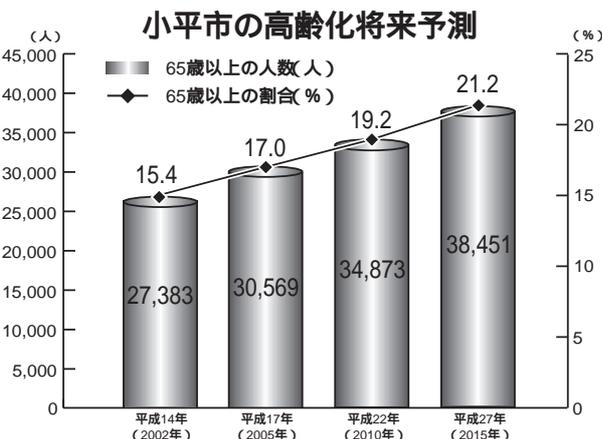
現在、市内には駅やバス停留所から遠い地域があり、高齢者などにとって移動がしにくい状況にあります。

高齢者が、移動のしにくさから家に閉じこもりがちにならないよう、まちに出て人や社会と接触し、いきいきと活動できるための条件となる移動手段を確保しなければなりません。市民ひとりひとりが元気に生活を楽しむことのできる交通分野の充実が求められています。

高齢者の歩行とバス停留所

高齢者の歩行に関するデータによると、年齢や身体の状態にもよりますが、高齢者は500メートルを歩くのに約15分かかります。一般的に500メートルを約7分30秒で歩く若者の2倍の時間を要します。

年齢を重ねるほど歩行に時間がかかり、歩行可能な距離が短くなる高齢者にとって、バス停留所が近くにあるということが元気にまちへ出るきっかけになります。



資料：東京都年齢別人口の予測（平成14年については住民基本台帳より）

コミュニティバスと福祉移送バス

コミュニティバスは、既存のバスだけではカバーしきれないニーズにきめ細かく対応するために始まった新しい「交通サービス」です。小型のバス（定員30人前後、幅2メートル・長さ7メートル程度）を使用し、バス停留所が近くなるように、住宅地の中を通るルート設定や短い間隔のバス停留所が特徴で、どなたでも利用できます。

福祉移送バスは、玄関から目的地までの移送が可能で、身体の不自由な方の移動手段として運行されるバスで、元気な高齢者や、小さな子ども連れの方などを対象としたものではありません。

このように、コミュニティバスと福祉移送バスとは役割が異なり、両者が補完し合う、地域交通の「車の両輪」と位置付けられます。これからは、元気な高齢者がいつまでも元気に気軽にまちへ出かけられる環境を整える必要があります。また、高齢者などにとって利用しやすい交通は、すべての人にとって利用しやすい交通であると考えられます。

環境にやさしい交通機関

コミュニティバスは、一般の路線バスに比べて車両が小さく、CO₂の排出が少ないので、より温暖化ガス排出抑制効果があると考えられます。さらに低公害車両の導入を図ることにより、環境への負荷が抑えられます。